令和７年度第１回東松山市総合計画審議会　次第

令 和 ７ 年 ５ 月 ２ ３ 日
総合会館３階　３０３会議室

１　開　　会

２　あいさつ

３　議　　題

１）市民意識調査の結果概要等について

２）将来像について

３）人口推計について

４）まちづくりの柱について

５）策定スケジュールについて

４　閉　　会

【資料一覧】

資　料　１　令和６年度市民意識調査－第六次総合計画に向けて－
資　料　２　将来像
資　料　３　人口推計
資　料　４　第六次計画おけるまちづくりの柱（素案）
資　料　５　令和７年度策定スケジュール概要（案）
参考資料１　（資料２関連）埼玉県内の市のキャッチフレーズ
参考資料２　総合計画審議会委員名簿
参考資料３　執行部出席者一覧
参考資料４　３か年実施計画書（令和７年度～令和９年度）
参考資料５　令和６年度市民意識調査報告書
参考資料６　第五次東松山市総合計画後期基本計画

令和６年度市民意識調査－第六次総合計画に向けて－

資料１

■調査の目的

東松山市では、施策や事業の基本的な方針を定める第五次東松山市総合計画を策定し、この計画に基づく施策を平成28 年から10 か年で推進しております。市民の市政についての意見や要望を幅広く調査し、これからの「まちづくり」に役立てていくために実施しました。

■調査対象者及び調査方法等

（１）調査対象地域　東松山市全域
（２）調査対象者　市内居住の満１８歳以上の市民２，０００人
（３）抽出方法　住民基本台帳から無作為抽出
（４）調査方法　調査票等を郵送で配付し、回答は郵送回答又はインターネット回答（調査対象者による任意選択）により行い、ハガキによる督促を１回行った。
（５）調査期間　令和６年９月１７日（火）～１０月１日（火）

■回収結果

配布数	調査票返信数	Web 回答数	無効回答数	有効回答数	有効回答率
2,000	748	347	1	1,095	54.75%

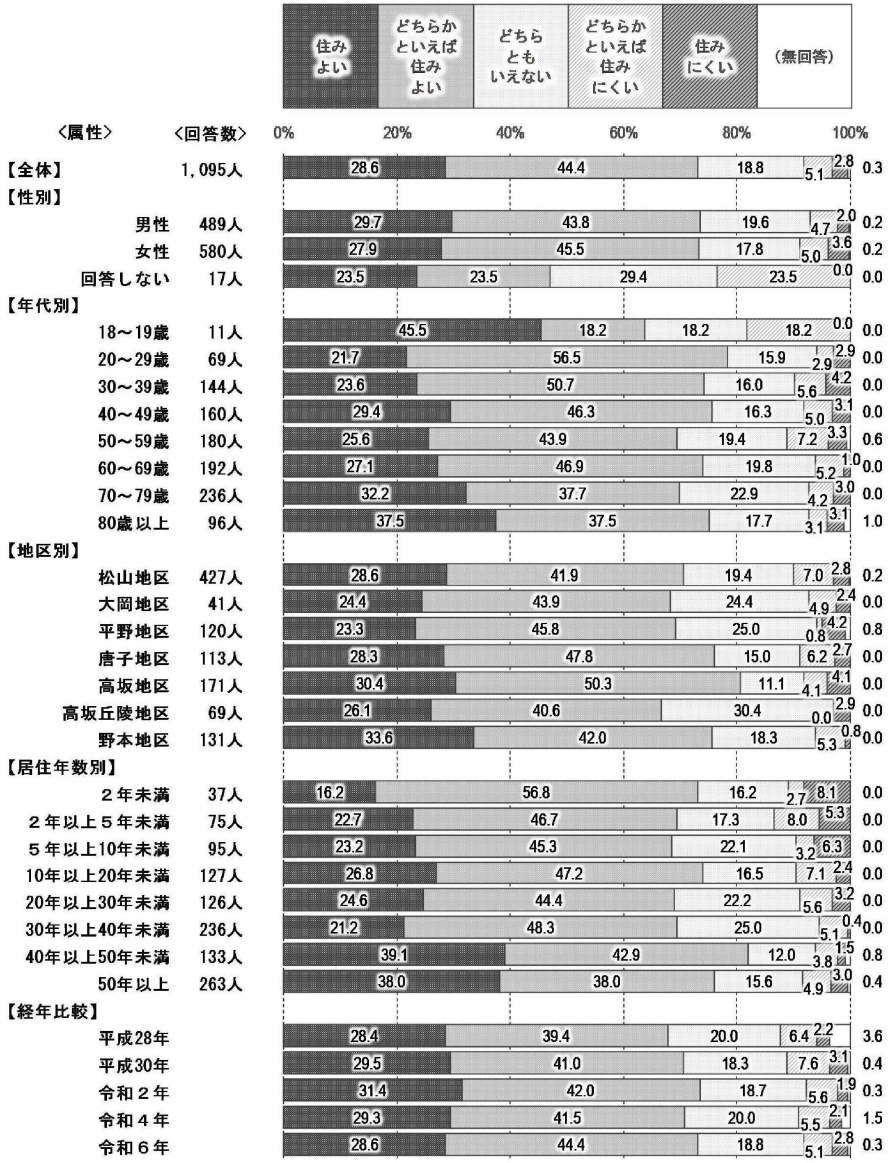
※無効回答数の１件は、回答されていない調査票が返信されたものです。

■回収率の推移

	平成28年度	平成30年度	令和２年度	令和４年度	令和６年度
配布数	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
有効回答数	1,292	1,221	1,282	1,122	1,095
有効回答率	64.60%	61.05%	64.10%	56.10%	54.75%

東松山市の住みよさ（問2）

■問２ あなたにとって、東松山市は「住みよいまち」ですか。



『住みよいと感じる』　73.0%

『住みにくいと感じる』　7.9%

⑴【全体】では、『住みよいと感じる（73.0%）』が７割台、『住みにくいと感じる（7.9%）』が１割未満となっている。

⑵【年代別】では、回答数が少ない「18～19歳」を除き、年代が上がるごとに「住みよい」の割合が上昇する傾向がみられる。

なお、回答数が少ない「18~19歳」では、「住みよい」の割合が最も高くなっている。

⑶【経年比較】では、年を追うごとに『住みよいと感じる』の割合が上昇する傾向がみられる。

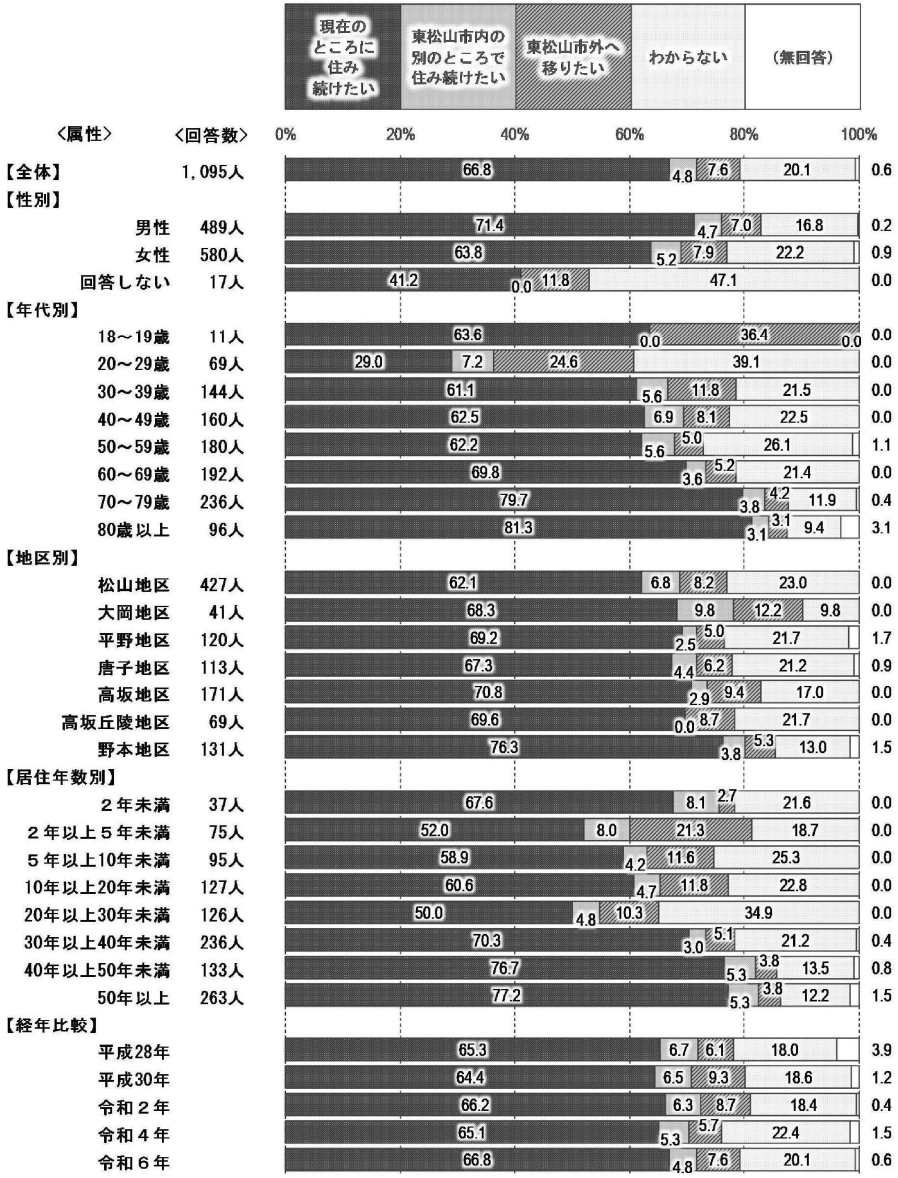
・多くの市民が「住みよさ」を実感している。

・市民の実感と外部的な評価（東洋経済新報社『住みよさランキング』における評価結果）で同様の傾向を示している。

・「住みよさ」は本市の特徴といえる。

東松山市での定住意向（問3）

■問3　あなたは、現在住んでいるところに、これからも住み続けたいですか。



『現在のところに住み続けたい』　66.8%

『東松山市に住み続けたい』　71.6%

⑴【全体】では、『東松山市に住み続けたい（71.6%）』が７割台で、「東松山市外へ移りたい（7.6%）」は１割未満となっている。

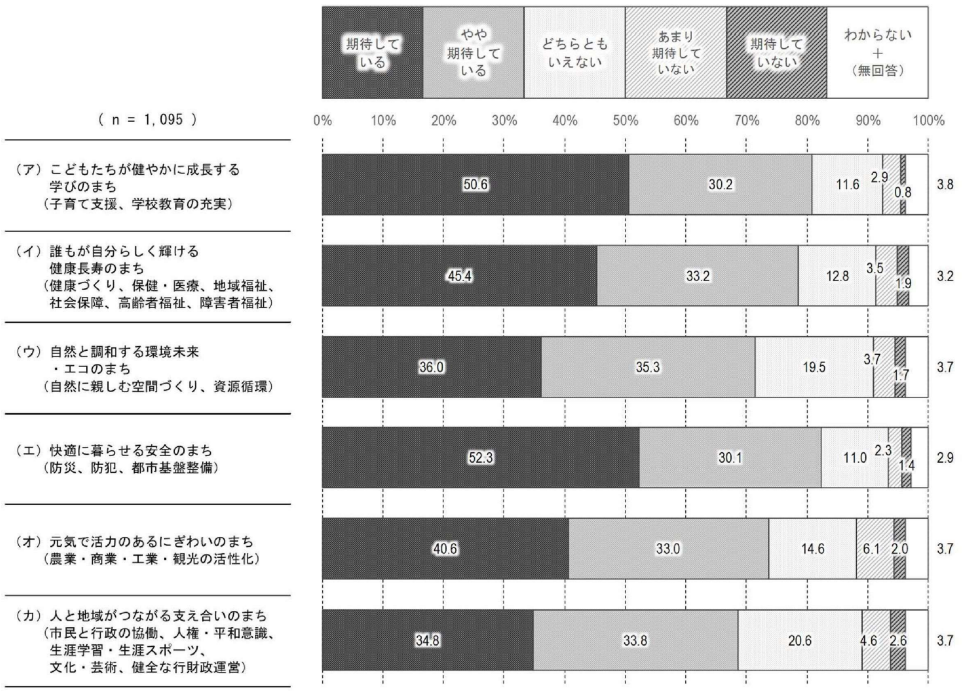
⑵【年代別】では、回答数が少ない「18～19歳（63.6%）」を除くと、年代が上がるごとに『住み続けたい』の割合が上昇する傾向がみられ、60歳以上で７割、70歳以上で８割を超える。一方、「東松山市外へ移りたい」は18歳から29歳まで２割を超える。

⑶【経年比較】では、『東松山市に住み続けたい』は直近５回の調査に大きな変化はみられない。

- **東松山市は「住み続けたいまち」**
- **若い世代（18~29歳）では、転出意向が強い傾向にある。中高生との座談会でも、一度は都心部へ出たいという意見が多かったが、家族と住むため、いつかは東松山市に戻ってきたい、住み続けたいという意見も一定数あった。**

東松山市の将来像（問32）

■問32　あなたは、これから東松山市がどんなまちになってほしいと思いますか。



『快適に暮らせる安全のまち』　82.4%

『こどもたちが健やかに成長する学びのまち』　80.6%

『誰もが自分らしく輝ける健康長寿のまち』　78.6%

⑴ 『期待する』の割合の高い上位３項目は、「（エ）快適に暮らせる安全のまち（82.4%）」「（ア）こどもたちが健やかに成長する学びのまち（80.8%）」「（イ）誰もが自分らしく輝ける健康長寿のまち（78.6%）」となっている。

⑵【年代別】では、『快適に~』は、各年代で期待度が高く、『こどもたちが~』は、若い世代での期待度が高く、『誰もが~』は、年代が上がるごとに期待度が高くなる結果となった。

・各年代共通の思いとして、まちの快適性や安全性を求めていることが分かる。

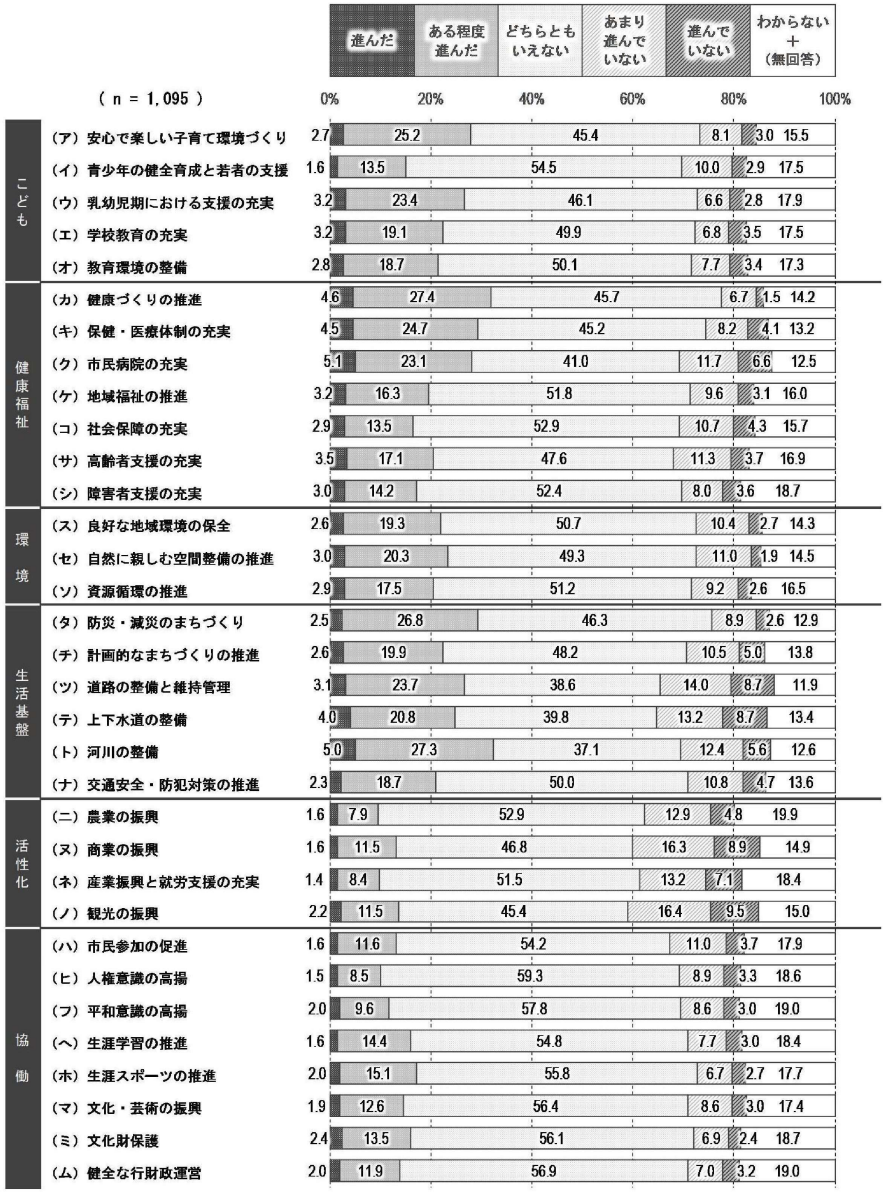
快適性 → 都市基盤の整備、利便性の高い交通網

安全性 → 防災力の向上や充実

・未来を担うこどもたちが健やかに成長すること、高齢者が健康で活躍できることへの期待。（ジュニア・シニア）

進んだと思う事業（問33）

■問33　市政の各分野の取組における「これまでの進み具合」で、あなたの考えに一番近いものは。



『河川の整備』	32.3%
『健康づくりの推進』	32.0%
『防災・減災のまちづくり』	29.3%

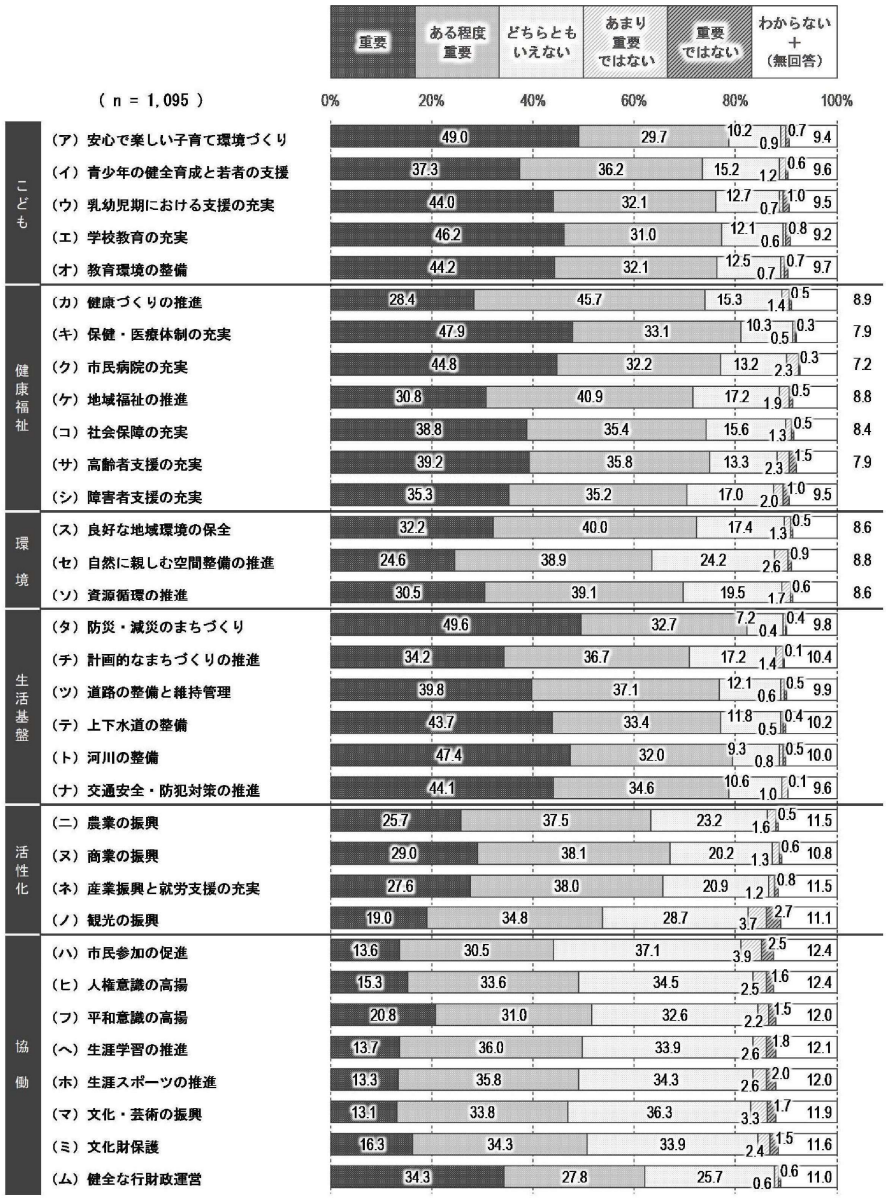
⑴ 『進んだと思う』上位３項目は『（ト）河川の整備（32.3%）』、『（カ）健康づくりの推進（32.0%）』、『（タ）防災・減災のまちづくり（29.3%）』となっている。

⑵ 『進んだと思わない』上位３項目は『（ノ）観光の振興（25.9%）』『（ヌ）商業の振興（25.2%）』、『（ツ）道路の整備と維持管理（22.7%）』となっている。

- **防災、減災に関わる取組の進み具合が評価されている。**
- **生活基盤の分野、健康福祉の分野で評価が高い傾向。**
- **活性化の分野、協働の分野で評価が低い傾向。**
- **60～79歳では、「健康づくりの推進」が上位。**
- **40～49歳では、「子育て環境」「乳幼児期支援」が上位。**

重要だと思う事業（問34）

■問34　市政の各分野の取組における「これからの重要度」について、あなたの考えに一番近いものは。



『防災・減災のまちづくり』　82.3%
『保健・医療体制の充実』　81.0%
『河川の整備』　79.4%

⑴ 『重要だと思う』上位３項目は、『（タ）防災・減災のまちづくり（82.3%）』、『（キ）保健・医療体制の充実（81.0%）』、『（ト）河川の整備（79.4%）』となっている。
⑵ 『重要だと思わない』の割合は全ての項目が１割未満となっている。

- **防災・減災、保健・医療といった、命に関わる取組の重要度が高い傾向にある。**
- **生活基盤、こども、健康福祉の分野で重要度が高く、活性化、協働の分野で重要度が比較的に低い傾向にある。**
- **協働の分野では、健全な行財政運営が比較的に重要度が高い傾向にある。**

中学生・高校生との座談会－１

「第六次東松山市総合計画」の策定に向け、将来のまちづくりの担い手であるこどもたちから、これまでのまちづくりに対する意見やこれからのまちづくりに向けたアイデアを伺うため、以下のとおり座談会を実施しました。

【対象】

市内の中学校、高等学校の生徒（生徒会本部役員の生徒のほか、参加を希望する生徒）

【実施期間】

令和７年２月１７日（月）～ 令和７年３月３１日（月）

【実施日時】

令和7年2月22日（土）13:30～15:00　東京農業大学第三高等学校（5名・学校）

令和7年2月27日（木）14:00～15:00　東中学校（8名・学校）

令和7年3月3日　（月）13:00～14:20　松山高等学校（6名・学校）

令和7年3月10日（月）13:00～14:15　南中学校（6名・市役所）

令和7年3月11日（火）13:00～14:15　松山女子高等学校（20名・学校）

令和7年3月18日（火）16:00～17:15　白山中学校（5名・学校）

令和7年3月21日（金）14:10～15:20　北中学校（7名・学校）

令和7年3月25日（火）14:00～15:10　松山中学校（9名・学校）

中学生・高校生との座談会－２

（共通1）大人になっても大人になっても東松山市に住み続けたいと思うか。

●1　都内や都心部に住みたい。

理由　交通利便性が高い。商業施設が多い。東松山のことは好きだが、一度は都内へ住んでみたい。

考察　交通利便性や商業施設の規模、種類については都内の方が圧倒的に優位であり、比較的な視点では本市の優位性は低い。また、都内には高収入な職や職種が多いといった意見もあり、都内や都心部であれば職業選択の可能性が広がるのではないかという期待感を持っている若者が多いことも伺い知れた。

●2　東松山市に住み続けたい。

理由　家族と一緒に住み続けたい。家賃が安い。東松山市でも十分交通利便性が高い。適度に自然もあって住みやすい。

考察　家族と住み続けたいという思いを持っている若者が多かった。一度は都内に出るかもしれないが、いつかは自分が生まれ育った東松山に戻ってきたいという意見も多く、本市への愛着が醸成されている様子も感じ取れた。

（共通2）「にぎわいのあるまち」とはどのようなまちだと思うか。

●1　人が集まりたくなる場所があり、多くの人の声があふれるようなまち
●2　地域の人同士のコミュニケーションが活発なまち
●3　誰にとっても過ごしやすく、年代や国籍を問わずみんなが楽しく暮らせるまち
●4　イベントに参加するだけではなく、市民が企画や運営にも携わり、まち全体で盛り上げる雰囲気のあるまち
●5　駅前の商店街の人通りが多く、活発なまち

考察　観光地のように観光客でにぎわっているまちが、イコール住みよいまちではないという意見も見られた。東松山市が川越市のようにはなれないが、なる必要もないという意見もあった。言葉の言い回しは異なるものの、地域の人々がつながりを持ちながら、共にまちを活性化させていこうとする姿勢や、その過程こそが「にぎわい」であるという認識を持っているのではないかと思われるような発言が多くあった。

中学生・高校生との座談会－3

（共通3）東松山市の強み、弱み

■ 強み

- ●1　交通の利便性が良い。
- ●2　地域住民のつながりが強い。住民の人柄がよい。
- ●3　自然が豊かで、自然と都会が調和している。
- ●4　子育て支援が手厚い。
- ●5　高齢者に配慮され、こどもにも優しい。
- ●6　生活に困らず、程よく楽しめる商業施設が揃っている。
- ●7　日本スリーデーマーチ、こども動物自然公園、やきとりなど、自慢できるものがある。

考察 ➡ 交通利便性に関する意見が多かったが、本市の強みとして、地域住民のつながりの強さや人柄の良さが多く挙げられた点は重要な視点になっている。ご近所同士であいさつができる環境など、年代を問わず、市民同士がつながりを持っていることをこどもたちは本市の強みであると認識しており、将来に渡って大切にしていくべきものの一つであることを示唆しているように感じる。

■ 弱み

- ●1　娯楽施設や遊べる場所が少ない。
- ●2　東松山市といえばこれ！というものが思い浮かばない。
- ●3　駅前の商店街がさびれている。
- ●4　SNSの情報発信力が弱い。
- ●5　大きい公園や運動場がない。

考察 ➡ 遊ぶことのできる場所が少ないという意見が多くあり、公園や児童館などの安心して遊べる場所が欲しいという意見があった。友人同士でお茶をしながら会話ができるようなスペースへの希望もあった。また、日本スリーデーマーチ・やきとりはあるものの、若い世代が印象を強く持つような象徴的なものがないという声も多くあった。さらに、SNSを活用し、若者が注目するような情報発信を積極的に行っていくべきという意見も多くあり、東松山市を知ってもらうための工夫や努力をさらに強化していくことが、本市の強みを増やしていくことにもつながる可能性がある。

中学生・高校生との座談会－４

（その他）市への要望、その他意見

●1　校庭に夜間照明がほしい。
●2　学校のトイレを洋式にしてほしい。
●3　学校同士のつながりを増やしてほしい。
●4　部活動の成果を披露する機会が少ない。
●5　学校の施設で壊れている箇所を直してほしい。
●6　市内に空き地が多く、有効活用できないか。
●7　ペットボトルのキャップを回収する事業を行ってほしい。
●8　もっと多くのイベントを開催してほしい。
●9　漢字検定や英語検定などの費用を補助してほしい。
●10 給食を充実させてほしい。
●11 狭い道や交差点など、通学路の状況が安全になるように改善してほしい。
●12 中学校の校区を見直してほしい。
●13 Instagramを開設した方がよい。
●14 起伏に富んだ地形が多く、PRしてもよいのでないか。
●15 生徒会として、地域のお手伝いに取り組んでいるため、何かあれば声をかけてほしい。
●16 ボウリング、映画館、カフェ、食べ歩きができるお店があると嬉しい。
●17 人が滞留する場所が少ない。
●18 東松山市は、良くも悪くも平均的なまちだと思う。
●19 総合計画に掲げる市の将来像は、短くてリズム感があり、覚えやすいような言葉にした方がよい。
●20 現在の総合計画の将来像の「元気と希望」は明るいイメージがあるので残した方がよい。
●21 将来像にはプラスのイメージがあるワードがあるとよい。人とのつながりやコミュニケーションを連想させるワードがあるとよい。
●22 将来像では、年代の壁を越えた交流などを表現できるとよい。

子育て世帯の意見－１

令和7年2月28日（金）に子育て支援センターソーレ・マーレを訪問し、子育て世帯の皆さんから東松山市の子育て支援サービスの充実度や、子育て環境・住みやすさを充実させるための取組についてのアドバイス・提案等を伺いました。

Q1.子育て支援や子育てサービスについて、どのように感じていますか。

・ソーレ、マーレは利用しやすく、土日も利用できる点が嬉しい。イベントもとても充実している。
・ソーレ、マーレのような場所がもう少しあると良いと思う。児童館があると嬉しい。
・子育てサービス関係の申込みを電子化してほしい。
・インフルエンザ等の助成があると助かる。給食費が中学まで無償化してくれると良いなと思う。
・リフレッシュチケットは、使用できる種類が増えると嬉しい。（おむつ券やミルク券など）
・東松山市には、公園や子育て施設がたくさんあって良い。
・保育園に入りやすい環境にしてほしい。

考察 ➡ 子育て支援センターの利用については非常に満足度が高く、本市の子育て支援の象徴的な存在となっている。
児童館や既存サービスの充実など、更なるサービスの向上や充実を求める意見も多くみられた。

Q2.東松山市は子育てしやすいまちだと思うか。

・希望園に入りにくい。4年生から学童に入れない子も多く、特に長期休みなどには心配事が増える。
・保育施設が少ない地区もあり、こどもを預けられずに、働きたくても働けない人もいるのではないか。
・大きな公園や子育て支援センター、ショッピングモールなどの買物ができる場所もたくさんある。
・小さい子でも遊べる公園やぼたん園のような大きな公園が他にもあるといいなと思う。
・特に不自由なく子育てできている。
・歩道が狭くてベビーカーが押しにくいので、改善されると嬉しい。

考察 ➡ 全体的には子育てしやすいまちという印象が定着している。個別の案件について、さらなる充実や改善を求める声もあることから、行政として対応可能なものを整理していく必要がある。

子育て世帯の意見－2

Q3.こどもの遊び場の充実度について、どのように感じているか。

・乳幼児（特に、はいはい時期）の遊べる場所をもっと増やしてほしい。
・遊び場の選択肢があまり多くはない。児童館や屋内遊具の施設がもっとあると嬉しい。
・子育て支援センターについては、広さや清潔感、おもちゃの種類等の面で満足度は高い。スタッフが優しい。
・動物園や大きな公園がたくさんあり市内で十分遊べる。
・体育館での催しも月に何回かあるのでありがたい。

考察 ➡ 全体的には、こどもの遊び場の充実度に対する評価は高いが、こどもが安全に安心して遊べる場所（児童館、屋内遊具がそろった場所）が増えていくことへ期待する声が多く挙がった。

Q4.子育て環境や住みやすさを充実させるための取組についてのアドバイスや提案、意見、要望は。

・小学生未満でも遊べるような遊具（幼児が乗れるブランコなど）が多い公園をつくってほしい。
・広い芝生の公園があると嬉しい。
・子育てしているママやこどもが集まるサークルを増やしてほしい。ママが安心して集まれる飲食店がほしい。
・色々な施設が1箇所に集まっている場所がほしい。（ピオニーのほかにもショッピングモールがほしい。）
・親の通院時など、一時保育のサービスを拡充し、利用しやすくなるとありがたい。
・1人目のこどもから保育園が無料だと子育てしやすく、2人目以降の出産も考えやすいと思う。
・保育園の待機児童数が多いと聞くため、施設数・定員を増やしてほしい。
・こどもにかかるもの（おむつ、ミルク、おしりふき等）やインフルエンザ予防接種への助成があると助かる。
・リフレッシュチケットの枚数・対象サービスを増やしてほしい。
・図書館の託児サービスの頻度をもう少し増やしてほしい。

考察 ➡ Q2での回答と同様に、既存サービスの拡充に対する意見等が多く挙げられた。実際に子育てをしている方の実体験を踏まえた声をどのように行政サービスに反映させていくかが重要となる。

資料２

将来像について

将来像とは、東松山市が10年後に目指すべきまちの姿を示すものです。

これまで積み重ねてきたまちづくりの成果を継承しつつ、市のあるべき姿をより確かなものにしていくため、

元気と希望と歩むまち
住みよさ　やさしさ　東松山

を、第六次総合計画の将来像とします。

検討のポイント

⑴　リズム感があり、覚えやすいこと。文字数を多くせず、端的に表せること。

⑵　元気 ＝ こども・高齢者をはじめとした市民の健康、駅周辺の賑わい創出、観光入込客数の増加、新規企業の進出、
四季折々のイベント、注目される特産品、農業の活性化　など

希望 ＝ 子育て環境の充実、豊かなシニアライフ、高齢者が孤立しない社会、災害に強い安心な暮らし、
世界で活躍する人材が育つ教育環境　など

歩む ＝ ウォーキングのまち、ウォーキングを軸にした施策（スポーツ、健康、福祉、学び、遊びなど）

⑶　住みよさ ＝ 10年後も住みやすいまちとして評価され、市民が住みよさを実感できること。
生活に必要な都市機能が整っていること。利便性の高い交通網が維持されていること。
武蔵野の豊かな自然の中で暮らせる環境があること。
ご近所同士であいさつができる関係性があること。（安心）

⑷　やさしさ ＝ 個（個人）が大切にされる社会の裏側で人間関係が希薄化する中、人と人とのつながりを大切にし、
人が孤立しないまちを作っていくこと。

将来像（候補）

１．元気と希望と歩むまち　ずっと住みたい（ずーっと住みたい）　東松山

多くの人が長く住み続けたいと思えるまちであり続けることを目指したまちづくり表現したもの。

２．元気と希望と歩むまち　行こっか！　住もっか！　東松山

第五次計画の「住みたい」「訪れたい」を継承。シティプロモーションロゴマークで使用している「いこっか！くおっか！ひがしまつやま」を踏まえて、元気で賑わいのあるまちづくりを強調した表現。

３．元気と希望と未来へ歩む（歩むまち）　住みよさ前進　東松山

今まで以上にもっと住みよさが向上したまちづくりを行っていくことを表現したもの。

４．豊かな住みよさ　歩むまち　元気と希望と　東松山

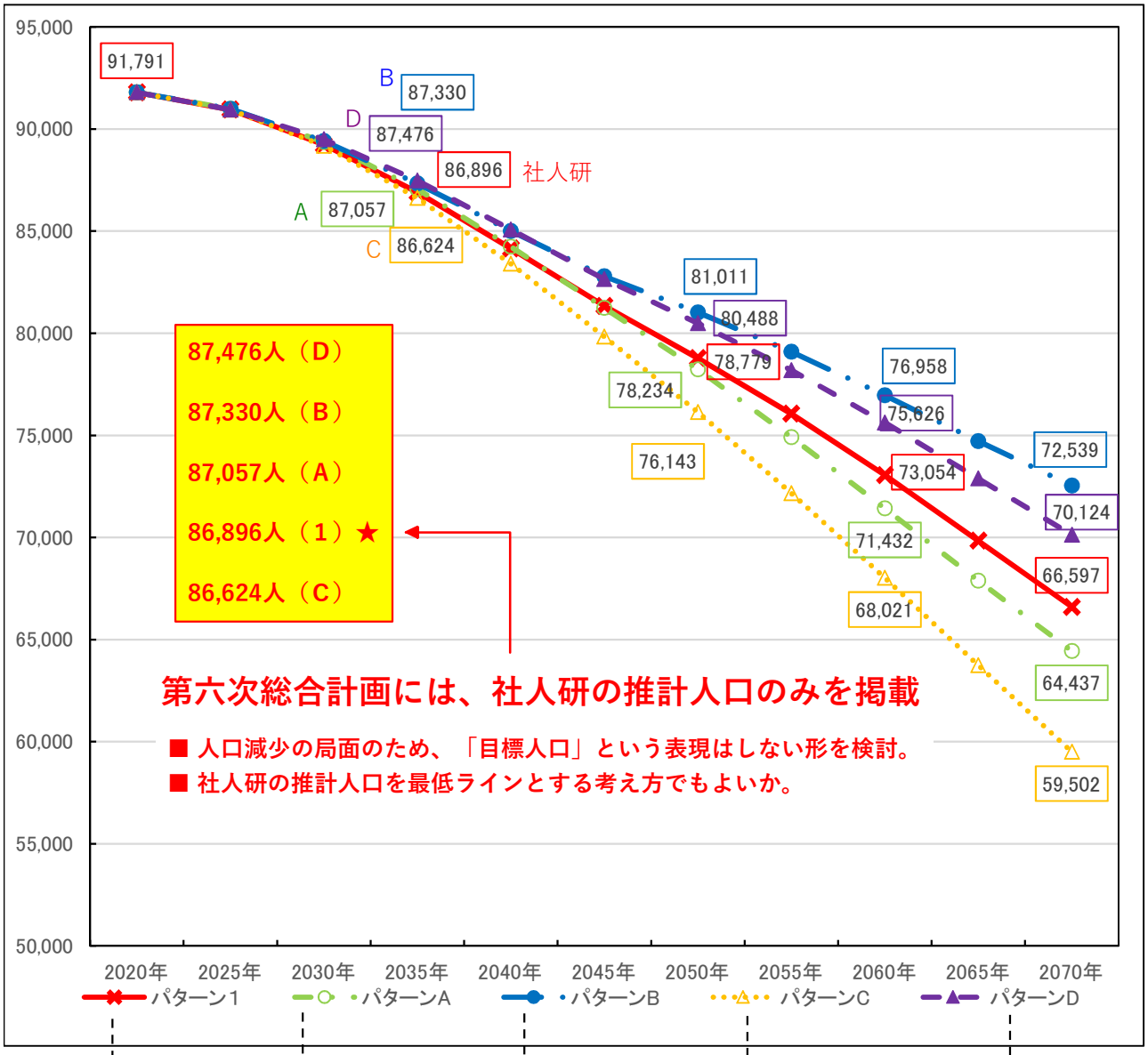
身近に豊かな自然がありながらも生活利便性が高いまちづくりを続けていくことを表現したもの。

資料３

人口推計の考え方

↓総合計画目標年次

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
パターン1	91,791	90,948	89,229	86,896	84,151	81,337	78,779	76,055	73,054	69,841	66,597
パターンA	91,791	90,985	89,360	87,057	84,239	81,241	78,234	74,906	71,432	67,883	64,437
パターンB	91,791	90,985	89,412	87,330	85,004	82,792	81,011	79,090	76,958	74,715	72,539
パターンC	91,791	90,948	89,178	86,624	83,398	79,838	76,143	72,162	68,021	63,745	59,502
パターンD	91,791	90,948	89,502	87,476	85,080	82,648	80,488	78,183	75,626	72,883	70,124



社人研による推計値

社人研による推計値
＋
出生率1.8まで上昇
純移動率は±０へ

社人研による推計値
＋
出生率1.8まで上昇
純移動率は増加傾向

社人研による推計値
＋
純移動率は±０へ

社人研による推計値
＋
年間50人転入
（子育て世帯）

●人口ビジョンに係る人口推計シミュレーション

推計パターン	仮定値の設定
パターン1 ※　社人研推計準拠の推計。	出生、死亡、移動について、国立社会保障・人口問題研究所による「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）に準拠した仮定値を設定。 ●出生の仮定 2005年～2020年の4時点の子ども女性比（0-4歳人口と20-44歳女性人口の比）の市区町村別と全国の相対的較差から2025年の較差を算出し、その較差が2050年まで一定（社人研の全国推計結果とその較差から子ども女性比を算出）。2055年以降は、2050年の合計特殊出生率で推移。 ●移動の仮定 2005年～2020年の3区間の平均的な人口移動傾向が2050年まで継続。2050年以降は、2045年～2050年の移動率で推移。
パターンA ※　2050年にかけて合計特殊出生率が1.8、純移動率ゼロ	パターン1(社人研推計準拠の推計)において、合計特殊出生率が2050年までに1.8まで上昇し、かつ、純移動率が2050年までにゼロになる。
パターンB ※　2050年にかけて合計特殊出生率1.8、移動はパターン1と同様	パターン1(社人研推計準拠の推計)において、合計特殊出生率が2050年までに1.8まで上昇、純移動率はパターン1と同様に推移。
パターンC ※　2050年にかけて純移動率ゼロ	パターン1(社人研推計準拠の推計)において、純移動率が2050年までにゼロになり、合計特殊出生率はパターン1と同様に推移。
パターンD ※　子育て世帯50人の転入を追加（1年当たり）	パターン1（社人研推計準拠の推計）に2025年以降1年当たり次の世帯の転入を追加。 ●「30-34歳の夫婦（男女）、5-9歳の男or女、0-4歳の男or女」（合計4人）×5世帯 ●「25-29歳の夫婦（男女）、0-4歳の男or女」（合計3人）×6世帯 ●「20-24歳の夫婦（男女）」（合計2人）×6世帯

第六次計画におけるまちづくりの柱（素案）0523版

資料４

第五次総合計画

１　子どもの分野
子育て環境、青少年、乳幼児期、学校教育、
教育環境

２　健康福祉の分野
健康づくり、保健・医療、市民病院、
地域福祉、社会保障、高齢者支援、障害者支援

３　環境の分野
良好な地域環境、自然に親しむ空間整備、
資源循環

４　生活基盤の分野
防災・減災、計画的なまちづくり、道路、
上下水道、河川、交通安全・防犯対策

５　活性化の分野
農業、商業、産業振興と就労支援、観光

６　協働の分野
市民参加、人権意識、平和意識、生涯学習、
生涯スポーツ、文化・芸術、文化財保護、
健全な行財政運営

・小文字：基本施策
・ベースとなる施策は第五次計画を踏襲
・「青字」は新規、変更

第六次総合計画（案）

１　こどもの分野
子育て支援、乳幼児期、学校教育

２　健康・福祉の分野
健康づくり、保健・医療、市民病院
地域福祉、社会保障、高齢者福祉、障害者福祉

３　環境の分野
生活環境、自然環境、資源循環・ごみ処理

４　生活基盤の分野
防災・減災、計画的なまちづくり、公共交通
道路、上下水道、河川、住環境

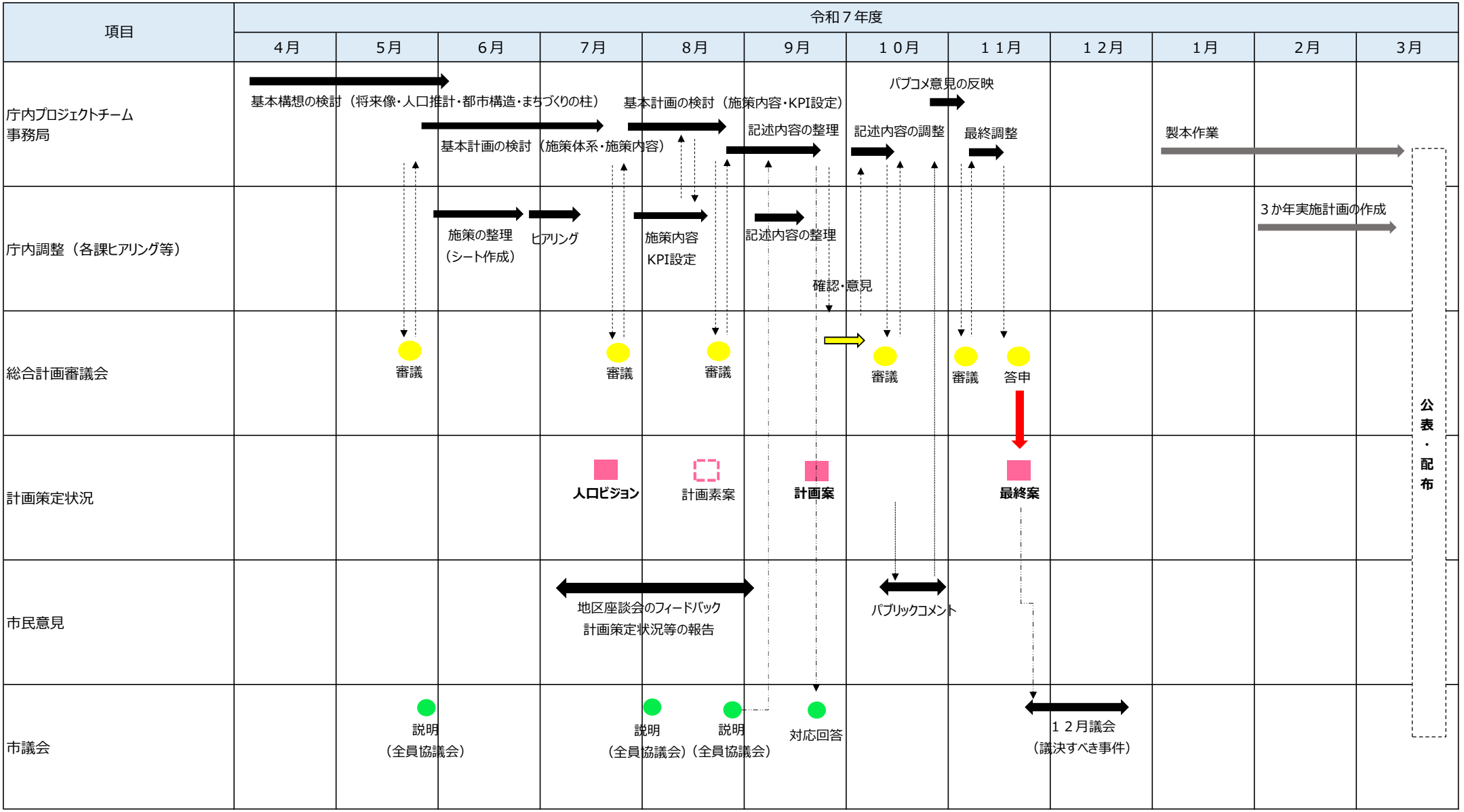
５　産業の分野
農業、商工業、観光・シティプロモーション
中心市街地活性化、企業誘致・就労

６　市民活躍の分野
市民参加、生涯学習、生涯スポーツ、
文化・芸術、人権・平和

健全で効果的な行財政運営
予算、賦課徴収、広報広聴、公共施設マネジメント、
人材育成、窓口業務、契約（DX推進、官民連携）

資料５

第六次総合計画_令和７年度策定スケジュール概要（案）



参考資料１

埼玉県内の市のキャッチフレーズ（R6.4月時点）

さいたま市	「上質な生活都市」「東日本の中枢都市」
川越市	「人がつながり、魅力があふれ、だれもが住み続けたいまち 川越」
熊谷市	「子どもたちの笑顔があふれるまち 熊谷～輝く未来へトライ～」
川口市	「人と しごとが輝く しなやかでたくましい都市 川口」
行田市	「いにしえと未来を紡ぐ 誇れるまち ぎょうだ」
秩父市	「豊かなまち、環境文化都市ちちぶ」
所沢市	「絆、自然、文化 元気あふれる『よきふるさと所沢 』」
飯能市	「水と緑の交流拠点 森林文化都市 はんのう」
加須市	「絆でつくる 緑あふれる 安心安全・元気な田園都市 加須」
本庄市	「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄 ～世のため、後のため～」
春日部市	「つながる にぎわう すまいるシティ 春日部」
狭山市	「緑と健康で豊かな文化都市」
羽生市	「誰もが幸せを感じる、住み続けたいまち 羽生」
鴻巣市	「花かおり　緑あふれ　人輝くまち　こうのす」
深谷市	「誰一人取り残さない みんながうれしい ふかや」
上尾市	「みんなでつくる みんなが輝くまち あげお」
草加市	「快適都市～地域の豊かさの創出～」
越谷市	「水と緑と太陽に恵まれた　みんなが活躍する安心・安全・共生都市」
蕨市	「安心・にぎわい・未来　みんなで創る　みんなにあたたかい　みんなのまち蕨」
戸田市	「『このまちで良かった』みんな輝く未来共創のまちとだ」
入間市	「香り豊かな緑の文化都市」「みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま」
朝霞市	「私が 暮らしつづけたいまち 朝霞」
志木市	「 市民力でつくる 未来へ続くふるさと 志木市」
和光市	「みんなをつなぐ　ワクワクふるさと　和光」
新座市	「未来もずっと　暮らしに『プラス』が生まれる　豊かなまち　新座」
桶川市	「学び豊かな 笑顔あふれる 幸せ未来都市 おけがわ」
久喜市	「人が笑顔　街が元気　自然が豊か　久しく喜び合う住みやすいまち　久喜」
北本市	「緑にかこまれた健康な文化都市 ～市民一人ひとりが輝くまち 北本～」
八潮市	「住みやすさナンバー1のまち　八潮」
富士見市	「理想の“未来”」　「充実した日々」「みんな笑顔☆ふじみ」
三郷市	「きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～」
蓮田市	「四季かおる つながり 安心 活きるまち」
坂戸市	「住みつづけたいまち 子育てしたいまち さかど」
幸手市	「みんなでつくる 幸せを手にするまち 幸手」
鶴ヶ島市	「しあわせ共感　安心のまち　つるがしま」
日高市	「誰もが安心して住み続けられる ふれあい清流文化都市 日高」
吉川市	「幸せつながる　みんなのまち　よしかわ」
ふじみ野市	「自信と誇り そして愛着のあるまち ふじみ野」
白岡市	「みんなでつくる 自然と利便性の調和したまち しらおか」

参考資料2

総合計画審議会委員名簿

	区分	氏名	役職名等
1	第1号委員	飯島　徹	東松山市商工会理事
2		今村　美代子	東松山子育てねっと副代表
3		小野寺　亘	埼玉医科大学　特任教授（元埼玉県総務部長）
4		小峰　良介	東松山市都市計画審議会会長
5		椎名　孝典	JA埼玉中央青年部
6		島田　政信	東京電機大学建築・都市環境学系教授
7		杉山　武志	松山第二地区民生委員
8		須田　知樹	立正大学地球環境科学部学部長
9		中嶋　啓一朗	（社）比企青年会議所専務理事
10		中田　幸昌	東松山市環境審議会委員
11		長島　洋介	武蔵丘短期大学健康栄養専攻教授
12		細田　咲江	大東文化大学国際関係学部教授
13	第2号委員	佐藤　幸俊	公募
14		関根　美沙	公募

任期：令和5年7月1日～令和7年6月30日

参考資料3

令和7年度第1回東松山市総合計画審議会　執行部出席者一覧

事務局

役　職	氏　名
政策財政部長	桶谷　易司
政策推進課長	今井　秀典
政策推進課　活性化戦略室長	原田　政洋
政策推進課　活性化戦略室主査	元田　貴志
政策推進課　主査	江原　友博
政策推進課　主任	長嶋　宥佑
政策推進課　主事	嶋岡　佑香